

<博士>

<p>あなた、または周りの方で「博士のおかれる厳しい環境や悲惨な状況を実感するエピソード」があれば教えてください。</p>	<p>あなた、または周りの方で「博士に進んで活躍している、博士の未来は明るいというのを実感したエピソード」があれば教えてください。</p>
<p>TA や RA で得られるお金は月々10万円にも満たないが、奨学金を借りても返済しなければならない。</p> <p>同年代の既に就職している人達と比べてあまりにも得られるお金が少なすぎる。</p> <p>今後確実によい賃金が貰える場所に就職出来るとも限らない。博士課程進学はギャンブルだろうか。</p>	<p>特になし。</p>
<p>博士を取るのに数年かかったとしても、安定した職につける人は限られている</p> <p>アメリカなどでは、研究室のPIが博士の学生の授業料を払ってくれる場合があり、加えて給与がもらえるため、博士に行く学生は比較的多い。日本の場合は一般的には授業料を自分で払わなくてはならず、お金をもらえたとしてもあまり多くもらえない。</p> <p>指導教員の研究の方向性(正しいか、間違っているかはわからない)に従わなければ、学位の取得は厳しくなる</p> <p>成果に伴わず、指導教員がNoといえれば学位は取れない (客観的な評価が乏しいように感じる)</p> <p>アカデミアにいる方は社会に出ていない方ばかりなので、博士を取った後の方向性を知る機会は少ない (自分自身で動く主体性がなければ、博士を取ったとしても、その価値は薄れてしまう)</p>	<p>大手製薬会社の研究職に内定</p>

<p>アメリカやヨーロッパは、ポストドクターなどの研究員に対して最低賃金の制度があるため、ある一定度以上の給与がもらえるが、日本はそれがないため、研究室のPIがすべてを決める</p> <p>研究室という閉鎖的な環境で実験を行うので、PIが一番偉く、パワハラ、アカハラなどは起こりやすくなる。</p> <p>生徒の能力なのか、指導教員の主観的な判断なのかはわからないが、「このままでは卒業できない」という言葉はよく聞く</p>	
<p>大学や研究所以外の就職先になると、博士卒のメリットがない。(給与が4大卒や修士卒と変わらない)</p> <p>博士号を取得しても、自分の得意分野(持っている技術など)を発信して仕事に活かせる機会がない。</p>	<p>大きい病院の管理職は博士号取得者が大半で、自分も将来はそのポストを目指せるということ。</p> <p>博士課程にいて、管理職の臨時代替者や非常勤講師としての仕事が時々もらえたため、職歴になった。</p>
<p>経済的に自立するのが難しく、周りから親に頼っている所を指摘されるとしんどい。</p>	<p>先生から修了後に海外の大学へのポスドクを紹介できるという旨を聞いたこと。これからの社会では博士が必要になると聞いたこと。</p>
<p>自分の身の回りでは何人か博士課程を中途退学した先輩を知っているが、昨今ニュースで取り上げられるような経済面・博士号取得後の将来性などの原因は少ないように感じる。個人的には、もっと短期的な問題、例えば研究進捗が得られず博士号の取得が期待できない、人間関係にトラブルを抱えた、博士課程の精神的な辛さに耐えられなかったなどの原因が主要なように感じられる。</p>	<p>少なくとも自分の周りの博士課程の学生及び博士号取得者は、他国の博士学生と比べても世界平均より優秀な人材であるように感じる。個人の意見としては、現在一番求められるのはそうした優秀な人材を社会が(特に企業が)どう生かしていくのか、明確なビジョンを持ちかつ実際に活躍させるためのシステムを構築する点にあると思う。</p> <p>自分は共同研究の関係で過去にスイスのETHで計4か月程度研究していた経験があり、その際にPhD defenseを何回か見に行ったことがあるが、言い方は悪いが「欧州のトップ大学でもこの程度の研究で博士号を取れるのか」と驚いた記憶がある。</p> <p>日本の大学でも何人かのPhD defenseを見た上</p>

	<p>で、かつ多少の同国人への臆心を考慮したとしても、自分はある程度の自信をもって日本の博士学生は平均的に他国よりも優秀だと主張できる。これはそもそも日本では博士進学ハードルが高いためある程度優秀で覚悟の決まった学生しか進学しないなどの原因も背景にあるだろうが、いずれにしても大学は平均的に十分競争力を持った優秀な博士人材を輩出できているように感じるので、あとは社会が彼らを最大限活用できるよう仕組みを整えさえすれば、博士・社会双方に明るい未来が開けるのではないかと思う。</p>
<p>一般的に日本社会においては、大学院で学生をしているとまだ学生なの？と大学院生をモラトリアムの延長のように考えてる方が非常に多く、日本の博士課程の学生はそのような偏見を受けてしまっている。実際私が半年間ではあるが米国ボストンの短期留学中に会ったアメリカの博士課程の学生や社会からの目は、博士課程の学生=将来、自分の専門性に加えリーダーシップを発揮し社会で必要とされるポテンシャルを持っている若者という印象で、日本における現状とのギャップに驚いた。</p> <p>研究室の後輩でも博士に進学しすごい研究ができそうなのに、博士進学後の生活や修了後の就職などを悩み結局、博士進学の願望を持ちながらもやむなく就職した後輩もいる。</p> <p>実際に学振の補助だけでは一人暮らしの学生の場合、家賃に加え税金などで日々の生活はかなりぎりぎりな人も多くいると思います。</p> <p>特に、文系の博士課程の状況はさらにひどいものだと思います。理系の博士だけでなく文系の博士も対象にしてあげて欲しいです。</p>	<p>私の場合、〇〇大学のオールラウンド型博士課程教育リーディングプログラムに参加し、理系の専門性だけでなく文系の副専攻、企業からのメンターの先生とのゼミ活動を通じて、参加する前に比べ単一の研究室で博士進学した場合では学べない多くの経験を積めたので、社会で博士経験を生かしていけるとしております。</p> <p>実際に、専門性+アルファを企業や社会は求めていると思います。社会に出て活躍する博士が増えて周りの博士に対する印象が変わってくれば、アカデミアに残る方、社会に出る方どちらに対しても状況は好転するのではと思いますが、現状は、私の友人の博士取得者でも海外の方が給料や研究環境、雇用条件などで国外に出てしまっている人も多いです。</p>

<p>就職面でいうなら博士終了後 5 年以内とかの募集がほとんどで、それをすぎるとアカデミックはどうしようもないということでしょうか。それなら最初から民間目指しますよね。</p>	<p>機械学習分野なら物理の博士はわりといるみたいです。</p>
	<p>企業の海外研究所に留学に行き、卒業後の就職のオファーをいただきました。海外企業の研究所での仕事の話は修士課程ではあり得なかったことなので、博士課程に進学して良かったと思いました。</p>
<p>〇〇大学の応用化学専攻は博士学生への経済支援が手厚いので、特に苦勞したことはありません。</p>	<p>企業サイドは激動する社会情勢に対応できる人材として、博士の採用に力を入れてきていると聞いております。博士人材が減っていることもあって、博士人材の価値がうなぎ登りです。良いことしかないです。</p>
<p>日本学生支援機構の貸与奨学金の残高が 950 万円あります。現在は日本学術振興会特別研究員ですが、博士 1 年次終了時に免除申請をし、146 万円の返還が免除された後の金額です。</p>	<p>学部の人たちと違って、個人の名前で売っていく博士課程においては、周りが成功したことと自分の成功とは何ら相関がないので無意味な項目です。</p>
<p>給料がとても安いです。40 歳でポスドク歴 12 年でも月 20 万円の先輩がいます。大卒で企業に就職する方がよっぽどまともな生活が送れます。本当に博士はおすすめはしないです。</p>	<p>海外で活躍して、日本に戻ってくると PI になっている方が多いです。しかし、これにはかなりの努力が必要です。</p>
<p>周りの人間の博士で悲惨だとかはあまり聞きません。厳しい環境に置かれることを覚悟の上で、それでも修行・トレーニングを積んで 30 代で大きく羽ばたこうという視座を持ったたくましい学生が多い印象です。</p>	<p>ポスドク@海外でのストーリーなんかは博士学生にしかできない経験だと思いますので、綺麗なエピソードに聞こえるかもしれないですね。</p>
<p>ポストが少ない。助教の公募の倍率は、40 倍を超えている。 アカハラを受けても、その分野に精通している先生から嫌われたらその世界で生き残れないから耐えるしかない。 県の機関にドクター枠がない。</p>	<p>PD を取って優秀な研究者への道を歩んでいる。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・常に研究面の実績でしか評価されない環境なので、成果が出ないとつらい。後輩に論文投稿を越されたりすると毎回自尊心が傷つく。 ・狭いコミュニティなので、人間関係が悪くなると毎日研究室にいくモチベーションが下がる ・同期がいないので、本音で話し合えて切磋琢磨できる同士がいない ・頑張ってる研究しているのに、授業料、奨学金などお金が全部盗られていくと感じてしまう 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の研究室で働いている先輩がいる(優秀な人に限るが) ・実際のところ、あまり感じたことはまだない
<p>採用側が博士の優位性を見いだせていないように学生には見えてしまう(博士で入っても修士で入っても変わらないと勘違いしてしまう)ため博士でのメリットを感じられていない。</p> <p>周りで博士を希望しているが経済的支援がないため断念しようか悩んでいる。</p>	
<p>一度博士課程に進むと、専門分野の枠を超えた就職がなかなか難しく、選択肢がかなり絞られるため、今後のキャリアパスが描けない。企業への就職を希望している場合、むしろ修士卒のほうが新しいことにチャレンジできるため、博士課程をやめるべきか真剣に考えた時期がある。(自分の経験)</p>	
<p>博士課程修了にもかかわらず、修士卒で就職した。メーカーとマッチングできず、選考にも進めない。給付奨学金等の支援制度が少ない。</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1.博士の学位を取得しても、地に足のついた生活ができる職に就けられなかった方がいる。 2. 企業への就職には必ず修士や学士が学校推薦の制度を使うために、行きたいポストが埋まってしまうために自由応募しか使えない博士には非常に不利 3. 海外では高度な専門性を持つ人間が優遇される。その一環で博士の学位取得が大きく斡旋されている。あるいは博士学位を持った人は就 	

<p>職には有利である。このような事情を知る企業人があまりにも少ない。そして関心が無さすぎる。</p> <p>4. 新しい事や分野に参入する、挑戦する人を疎むような風潮が日本にはある。結果としてそれが日本人の首を絞める事になるのを自覚できていないように感じる。博士が重宝されないのはそのためではないのだろうか。</p>	
---	--

<修士>

<p>あなた、または周りの方で「博士のおかれる厳しい環境や悲惨な状況を実感するエピソード」があれば教えてください。</p>	<p>あなた、または周りの方で「博士に進んで活躍している、博士の未来は明るいというのを実感したエピソード」があれば教えてください。</p>
<p>そもそも海外ではお金をもらって研究するのに、日本は学費を払って、奨学金を借りて研究をしないといけない。学びたいことを学ぶのにお金が膨大にかかる。さらにはそんな状況で社会人として扱われる。</p>	<p>明るいわげがない。 修士まででやめる。メリットが少なすぎる。</p>
<p>教授の推薦で博士課程に進んだにも関わらず、就職活動のできない日程で他の研究機関に送り、挙げ句の果てに研究職につくことはできませんでした。</p> <p>修士での卒業でも研究職につく学生は一定数いるにも関わらず、現在内定もなく来年からの進路が決まっていない状態です。</p>	<p>不平不満、教授への文句しか聞きません。</p>
<p>私は博士課程に進学する予定だが、今のところ奨学金で生活することになりそう</p> <p>博士課程3年のときの、就活をしながら博士論文を仕上げるのはすごくきつい</p> <p>博士課程を3年で終えられない人が多い</p>	<p>博士号を持っていることで、企業に入ってから国際社会で議論などをしやすくなった</p> <p>この頃は研究者が不足している傾向にある</p> <p>博士で学んだノウハウは、その専門を生かした職でなくても生かすことができ、強みになる</p>
<p>教授から博士課程に勧められる機会が良くある。研究自体は面白いのだが、今後のキャリアと安定性を考えるとやはり就職の方がよいと考え就活を現在行っている。</p> <p>私の一つ年上の先輩は博士課程に進学する</p>	<p>博士課程に進んだ人は現在、欧米の研究所でポスドクとして働いている。以前、研究で欧米に行った際、直接会いお話しした。その時おっしゃっていたのは「現在は修行の身、ある程度成果が出て日本にポストがあれば戻ってくる」とおっしゃっていた。や</p>

<p>が、その先輩は将来のことをあまり考えていないように思える。おそらく考えたくないのだろう。</p> <p>ある教授は私にこのようなことを言った。博士課程に進学してもポストがなければアルバイト生活になると...そんな先行き不安な博士課程進学をしたいと私は思えない。</p>	<p>りがいはありそうだったが、先行きは一般社会人と比べ不安だと思う。</p>
<p>大学や修士課程までの友達がみんな就職して東京に行ってしまう、プライベートでご飯などに行く相手が少ない。</p>	<p>博士を出て海外で楽しくポスドクとして研究している。</p> <p>就職希望の人も問題なくできている印象</p>
<p>研究室博士の先輩は、自らの研究を進めて論文を書くということ意外にも装置のメンテナンスや後輩の指導といった雑務に追われており非常に忙しいそうにしていました。</p>	<p>博士の先輩は就活では大手企業からあっさり内定をもらっていたので、修士よりも優遇されていたと感じています。</p>
<p>アカデミアへの就職の場合、実績だけではなくコネを作る必要があり、大変そうだった。</p>	<p>博士の先輩が、とある外資系企業の本選考をかなりショートカットして受験していた。</p>
<p>在籍する研究室ではここ10年ほど日本人の博士進学者がいない。今年卒業の修士2年が久しぶりの進学者となる。</p>	<p>博士についてポジティブな考えを持っている人は教授以外で見たことがない。</p>
<p>博士課程に進学しても、奨学金が貰えず非常に金銭面で苦労しながら卒業したが、特に社会に出ても良かったことはないという話。</p>	<p>博士にすすみ、学振が通ったので研究に打ち込んでいる。また、趣味も充実している方がいる。しかし、こういう方は稀だろう。</p>
<p>一旦修士卒で就職したものの、研究を続けたいという思いから大学に博士後期課程に戻っていらした先輩がいて、学会賞をもらったレベルだったのに学振DC1(~2)を取得できず、来年度より大学を退学された上で研究員をしながら学位取得を目指されるらしいです。</p> <p>地方私立なのでなかなか同じ博士課程レベルの人が同じ機関にいることが少ないのもしんどそうです。</p>	<p>博士に戻ってきたからこそ研究への適性、楽しさを再認識されたようで、博士課程を終えることで取得するのではなく、研究員としてペーパーを提出し実績を重ねることで博士取得を目指すような道を見つけており、このように、研究者に至るまでの道が充実し、さらにそれを指導する側にも明確に、学生に伝えられるようにまとまって行くなれば嬉しい。</p>
<p>ほかの研究室などで研究室に来なくなってしまう博士課程の学生の話聞く。</p>	<p>年齢にして5歳くらいしか変わらない博士卒業したての方が助教で赴任してこられたりしているので、そういう精力的に研究する若い方には輝かしいポストを得る夢があると思った。</p>

<p>博士までいくと逆に就職どこいくなだ。 わたしはそんなことないと思いますが。</p>	<p>大学の先生をみていると、それもありがたおもいます。</p>
	<p>他大学の助教ポストで研究を続け、学会や企業から評価されている</p>
	<p>出来てから3年目の研究室のため、博士の就職状況については分かりません。 博士の学生は教授からリサーチアシスタントの仕事してもらい、金銭的な援助を受けていたり、返済不要の奨学金を貰っているなど在学時の金銭面での不安はあまりないと思う。</p>
<p>金銭面。私は来年から博士後期課程に進学するが、日本学術振興会の募集するDC1には通らなかった。そのため、給付型の奨学金に応募しているが、まだ来年度の収入源は決まっていない。このままだと、貸与型の奨学金をもらうことになるだろうが、今までの大学6年間も奨学金を借りているため返済額が大変な額になるだろう...</p>	<p>就職がないと言われるみたいだが、自分の分野において周りで就職できなかった博士課程の卒業生はみたことがない。みな優秀だったからかもしれないが...</p>
<p>日本で博士になるメリットが海外と比べるとあまりないイメージです。 周りに博士に行っている人自体あまりいません。</p>	<p>周りに博士がいないのであれですが、何か一つのテーマに没頭した先に明るい未来がないならそれはそこに明るい未来を準備しなかった大学か企業が悪いんだと思います。</p>
<p>工学の博士なら就職先はあるが、理学系や専門が絞られる専攻だと、修士より就職が厳しくなるというのを聞いた。</p>	<p>社会人で博士と修士を取った人は働く活躍の場が広がったのは聞いた。</p>
<p>ポスドクの方が今年任期切れで再就職先が見つかって無い</p>	<p>自分の先輩の博士の方は3名おり皆さん素晴らしい</p>
<p>他の研究室の博士進学を考えていた修士2年の先輩が、学振に落ちてしまった。その研究室は博士進学者が多くかつ優秀な人が多いため、ほとんどの先輩が学振を取ることが出来ていた。収入面での不安もさることながら、自分は劣等生なんじゃないか、博士進学に向いてないんじゃないかという不安が押し寄せ、かなり精神的</p>	<p>現在ポスドクの人にアカデミアの道に進む不安(主に収入面)を相談したところ、全国平均的な話ならともかく、東大生であれば流石に心配はいらないと言っていた。勿論総合商社などと比べれば収入は低い、不自由なく暮らしていけるレベルの収入はあるらしいと聞いて、少し安心した。</p>

<p>にやられていた。博士進学をやめようかとも考えていたようだった。学振の採択率は20%ほどと狭き門なのに、落ちると悲惨な状況になりやすいというのは博士進学のハードルを上げてしまっていると感じた。</p>	
	<p>研究が好きな先輩が苦しみながらもやりがいを感じている</p>
<p>実際の状況としては周りに日本人の博士学生がいないためしりませんが、イメージとして「博士になると頭でっかちになるという印象から企業から雇われにくくなる(就活がしにくい)」、「歳だけとってしまう」など、ネガティブなものが根付いていると思います。実際、知り合いの修士学生は博士課程は敬遠する傾向にあります。私の在籍する〇〇大学では博士課程に所属する学生はほとんど留学生で、日本人や日本社会とは違う認識があるのだろうと少し羨ましく感じます。</p>	<p>教員が活躍している様子は伺うことができますが、大学の外で活躍している、という話は聞いたことがありません。</p>
	<p>機械系は博士重宝されてると思います。就活で困った話は聞きません。</p>
<p>先輩曰く、博士に行った結果、学部修士の時よりも就職先の選択肢が減っていた</p>	<p>学振取れた先輩はまだ生活できていた</p>
<p>真面目にやっていた博士3年の人が、留年することになり、そして、研究室にも徐々に来なくなり、今ではその人がどうしているか皆もわからない状況です。</p>	<p>学振をとり、さらに留学をした人で、今まで研究してきた分野で企業に就職してからも研究職として働けることを約束されながら、大手企業に就職できた。研究をバリバリやっている研究室の博士課程の人が、海外のとても有名な研究室からオファーをもらったと聞いた。最終的には、大手企業を選んだと聞いた。</p>
<p>数学・数理物理系では、博士に進学すると就職が難しいというのがほぼ常識で、そこで修士で大学を出る人が多い。しかし、就活の前倒しが進み、修士入学直後から就職を考えなければならない状況になっている。</p>	<p>皆無</p>

<p>これは、ただでさえ短い修士の2年間で研究の時間が減る原因となっている。</p>	
<p>国からお金が出ないという話はよく聞きます。</p>	<p>海外では博士という肩書が評価される。</p>
<p>研究が好きで博士課程への進学を目指して修士課程に入ったが、授業料を払う見通しがないためあきらめた。指導教員は「とにかく研究して学振に応募すればよい」と根性論を展開している。苦学生の私ではアルバイトもする必要があり、研究に力を入れることができないのが現状である。結局は上位大学で経済的に余裕のある学生のみが研究に没頭でき、学振でその研究成果を存分にアピールできる。博士課程は、上位大学で経済的に余裕のある学生のためだけの組織となっており、それに該当しない者は必要ないと言わんばかり。また、博士課程には留学生しかおらず、装置の使用法、失敗した実験のアドバイスが一切得られないなど粗悪な研究環境となっている。現在は研究が無駄に思えている。嫌いになった。</p>	<p>一切ない。私たち(同期)の中では、笑いの対象となっている。</p>
<p>博士卒後、私の研究室の助教の先生は1年間半という任期のみしか与えられず、出勤時間のほとんどが事務作業を割り当てられ研究をする時間がないとおっしゃっています。〇〇大の若い教員の方は授業や専攻関連の事務作業に多くの時間を割かれ、研究者としての実績をつけるのはほぼ不可能な状態にあると聞きます。</p>	<p>なし。就職に失敗して仕方なく博士に進学した方ばかりで、民間への働き口が限られているため、ずるずるアカデミアに残っている人が多いです。</p>
<p>博士課程に行っても深い学びができていないように見える。ラボの雑用をさせられているイメージ。就職においても博士課程だからと言って企業は求めていない。また、アカデミックに進んでもポストもなく、低収入、不安定。どう考えても行きたくない。</p>	<p>なし。</p>
<p>日本の企業は博士を採用したがないため、博士の先輩は就職活動に苦労していた。</p>	<p>ない</p>

<p>外国人の博士課程の学生が極めて劣悪な扱いを受けている。無給で1日12時間以上の実験を余儀なくされ、実験データを他の教員に流用しているため、論文をなかなか書けずにいた。間違いなく超人的な努力をしているにも関わらず、研究室でのヒエラルキーは低いままだった。</p>	<p>ありません。ほとんどの博士学生の進路はひどく暗いと思います。</p>
<p>博士課程に進む先輩を数人見ましたが、就活を延長するために入った人がほとんどで、研究を続ける人は見たことがないです。</p>	<p>ありません。</p>
<p>私の周りで博士進学している人はリーディング大学院や学振など、研究成果で審査に通ると月20万程度の金銭的支援を受けられる制度を利用している。しかしそれでも、税を抜かれ、学費を払い、東京に下宿しながら生活しようとする、金銭的にかなり厳しいという話をよく耳にする。</p> <p>また、+3年かけて厳しい修行をしたにもかかわらず、日系メーカーだと修士卒とそこまで待遇が変わらなかつたりするので、経済面に余裕がある人でないと選びにくいと感じる。</p>	<p>「博士に進めば安泰だろう」と感じたことは一度もないが、私の周りの博士の人を見ているととても優秀な人ばかりなので「この人だったらどこでも重宝されるだろうな」と思う。</p> <p>また、知り合いの一人は、博士取得後海外のメーカーに就職し、エンジニアとして高額の給与を得ている。海外に行けばドクターの評価は日本より高く、待遇も良いという話をよく聞く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学部時代に所属していた研究室(バイオ系)の先輩が、博士取得後のポストが見つからず、応募した企業も全て不採用だったため、出身研究室で無給のポスドクをしている。 ・大学内でも最上位クラスに優秀で、今後もアカデミアで分野を牽引することを期待され、当初はそのような志を持っていた博士の先輩方(理論物理専攻や計算化学専攻など)が、アカデミアの雇用の不安定さを嫌い、どんどん民間企業への就職を決め、分野を離れてしまっている。 ・上記のような状況を間近で見た結果、最初はアカデミアで研究したいという熱意を強くもっていた同期達のほとんどが、博士課程への進学すら諦めてしまった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物理学出身の博士が、データサイエンス系の企業で大活躍し、最速で出世している。

<ul style="list-style-type: none"> ・一般に3年とされるが半分くらいの人が3年で学位を取得できていない。 ・教員からは無償の労働力として扱われる。つまり、僕たち(後輩)の面倒を見てくれて、様々な実験操作や報告の仕方などを教えてくれるが一切経済的援助を受けられていない。 ・博士になると教員からのあたりがきつくなる。 ・n数が少ないが、博士の方が就職に苦戦しているような印象がある。 ・機器の修理やメンテナンスなど普通であればお金を払って外部に委託するようなことを、できるが故にやらされている。 ・日本では博士がなくても企業で研究者としてやっていけるということを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に広範で深い知識を有している。 ・外国では Ph. D がないと研究者として話すら聞いてもらえないと聞くこと。日本も国際化の波に飲まれてそうなるのかもしれないということ。
<ul style="list-style-type: none"> ・私の研究室では終電近くまで活動することも多く、その活動時間は企業の1.5倍(さらに週休1日)であるにも関わらず、日本では基本的にお金がもらえない(それどころか学費が発生する)。 ・せっかく頑張ったにも関わらず博士卒の就職口が非常に狭く、民間企業においては年齢など(特に女性の場合)むしろマイナスに思われるケースが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 大手企業の内定を断って博士進学を決意したが、先が真っ暗で既に後悔している。
<ul style="list-style-type: none"> ・現在就職活動中であるが、そもそも博士課程を採用要項に載せていない、又は修士卒と同等で扱っている企業がほとんどの印象がある。必ずしも就活のためにD進するわけではないと思うが、博士課程の大変さや知識が正當に評価されていないと思う。 ・博士課程の後の話ではあるが、少ない教授のポストを巡りポスドクや助教授として生活してる人が多すぎる。結局研究室の雑務を教授らに押し付けられて研究ができない、結局教授になれないといった現状を見てアカデミックに進みたい 	

<p>と思える人の思考が理解できない。それくらい将来が暗い印象。</p>	
<p>・就職しようとしても博士号を持って就職する人が研究職のうち1人しかいないため博士号を取るメリットがない</p>	
<p>1日12時間以上研究や研究室の業務に忙殺されるにも関わらず企業で貰えるような給料は貰えない、バイトをする時間が無いので生活も社会人より苦しそう、学位をとっても博士人材を求める企業がそう多くないので就活にも苦労している、企業と異なり成果やその評価体系が不明瞭で、やった分だけ上に行けるとは限らない</p>	
<p>ワクシンが取れるか取れないかで経済的負担に大きな差が出るため、修士論文とは別にワクシン用の資料作成を何日もかけて行っており、並行して学会の準備や他大学の学生との研究の打ち合わせなどを行なっているのが大変そうだった。</p>	
<p>そもそも博士に進もうとする人が少数で周囲にいない</p>	
<p>そもそも博士に進学する学生が少なく、進路情報が3年分まとめてしか発表されない</p>	
<p>フィードバックのある理系の集団面接で、博士後期中退する方が年齢の観点からあまり良い評価を貰えていなかった。</p>	
<p>学振を取れないと経済的に苦しくなるため、学振が取れるような「響きのいい」研究を新たに始めることになった博士の先輩がいた</p>	
<p>私の周りに博士の方がいません。</p>	
<p>自分の研究室には現在博士がおらず、大学院修士課程が、就活用に使われているように感じる。ゼミなどの研究室の集まりよりも就活に注力する同級生(M1)がほとんどである。自分は、未だに博士に進むか就活するかで迷っているが、</p>	

<p>研究室の未来を思うと就職するのは心が痛む。しかし、博士過程に進んでも学振が通らない限りは苦しい生活を強いられるだろうと教授から仰られるため、さらに迷いが加速している。</p>	
<p>就職先が限られる 就職後の給料が、修士や学部卒生と同じ</p>	
<p>他の研究室の博士の先輩が、返済型の奨学金しか獲得できず、優れた成果も出せていないため、オーバードクターとなってしまった。加えて、休学で学部で8年、修士で4年を費やしたため、現在は30代後半で就業経験なし。ポスドクにも採用される可能性が厳しいため、今後はフリーターや消息不明になる可能性が高いと私は推測している。</p>	
<p>同じ学科の博士課程の先輩が「学位とっても多額の奨学金の返済があるから人生終わってる」と言っていた。</p> <p>博士号をとって他大学のポスト(任期有)に就いた先輩が2年目の時点で次のポスト探しにおわれている。</p>	
<p>日本人の博士課程学生がそもそもいない</p>	
<p>博士の先輩が、返済型の奨学金しか獲得できず、TAも5年大学でバイトをしていたらダメという規定ですることができず、そのストレスから八つ当たりをされ、研究室の周りの人達から嫌われてしまい、孤立した</p>	
<p>博士号を持つ〇〇大のポスドクの方に博士課程に進学したらその後の進路はどんな感じですか？と質問したところ、 地獄と回答されました。</p> <p>その方は私から見ると並々ならぬ知識や研究力や精神力をお持ちで、大学の助教などになるべき人材だと思うが、ポストが無い 大学の助教などで、全く論文を書いていない人</p>	

<p>などが各大学に数人はいると思うがそのような人が解雇され、将来有望な若手研究者が少なくとも生活が安定した状態で研究に打ち込めるようになって欲しい</p> <p>そのような現状なので私自身も日本学術振興会特別研究員(DC1)になれなければ博士課程には進学しないつもりです。</p>	
<p>非常に優秀な博士の先輩が、考え方が尖っているという理由で就職活動がうまくいっていない。博士で生き残るような人はある程度考え方が尖っているのが普通だと思う。</p>	
<p>本研究グループに博士課程の学生は所属していないが、来年度より博士課程に進学する修士2年の先輩について。さまざまな若手研究者支援制度に申請しているが、採用者枠がそもそも少なく尽く不採用となっている。これから研究者となるため張り切って研究をなさっていた矢先の出来事でまだ進学していないにも関わらず先行きが不安だと愚痴を零していた。他の同期の先輩方は全員就職が決まっており、最近では給料について楽しそうに話していることが多い。まだ先輩自身が実際に生活が困窮しているわけではないが、来年度と迫った新生活に対する精神面の対比が印象的だった。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・以前、他の研究室で研究がうまくいっていないドクターがおり、ストレスからアルコール依存症になっていたようで、トイレの中でうずくまっている姿を発見し、110番したことがある。救急車に運ばれてから、学内で姿を見かけることはなくなった。入院したと思われる。 ・DC1 や DC2 が取れなかったドクターが将来の不安からうつ病になっている。 ・民間の内定をとったドクターに対して、研究者のアタリがきつい。 ・ドクターを取った後、ポストにつくことができず 	

<p>にいわゆる「ヒモ」になっている人がいた。</p> <p>このような姿を見て、自分もドクターに行くことをやめて就職活動をしている。(匿名であれば、取材を受けることは可能です。)</p>	
<p>学振に落ち、来年は日本学生支援機構から奨学金を借りて生活する。生活苦しいだろう。</p>	
<p>私の教授の特徴は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究できない (やったことがない) ・論文が読めない ・自分研究を大学院生や助教に投げつけて、成果が出れば自分のもの ・学生の研究をコピーして自分の成果として学会で発表する ・研究は全て外注 ・すぐ嘘をつく ・約束を破る <p>このようなクズでも日本では Ph.D が取れてしまうので、博士の評判が悪いのは最もだと思います。さらにそういう奴が大学教授の職を得て研究とは何かを偉そうに学生に語っている (もちろん指導なんかはできない) 時点で、日本の科学に未来はないと確信しました。</p>	
<p>博士の先輩がいたが、学進も通らずお金がない、お金がないが実験で忙しすぎてバイトは出来ないという苦しい状況だった。学進は論文成果が必要になるが、直属の教授の先生がその先輩の論文をしっかりとみる暇がない程忙しく、論文がなかなかパブリッシュされないという状態だった。そのため学進は3年間ずっと通らなかったようだった。</p> <p>また、博士だからといって、研究室の雑務を沢山させられていたり、他の先生とのコネクションを作るために飲み会に出席したり、と研究以外</p>	

<p>の面でも非常に苦勞しているように感じられた。その先輩は昨年卒業したが、言い残していった言葉は「ドクターには絶対行くな」だった。</p>	
<p>博士は研究をしっかりと行っていれば、2年で修了可能です。しかし、就職においては修士よりも職種が狭まり、さらには、博士が修士と同じ待遇のところさえあります。なので、研究一本の人にはオススメですが、色々なことをやりたい人なは不向きです。また、修士で就職後にポスドクという手もあります。</p>	
<p>建築業界では博士課程へ進むと就職先が修士の時よりも減ります。どうも日本の建築系企業は、博士へ進むぐらいならその分の時間を実務経験に費やして欲しいと考えているらしく、博士は冷遇されます。もし就職できても扱いは修士の学生と変わらないので、博士はほぼ行く意味がないです。ほとんど留学生のための制度になっています。</p>	
<p>卒業できるかどうかわからないまま研究の日々を送っている</p>	
<p>博士課程の先輩が奨学金制度に全て落ちて、昼ごはんをずっとうどんだけ食べる生活をしています</p>	
<p>資金や進路という面での厳しさはもちろんであるが、日本で博士課程というと”学生”としてみなされている現状が一番厳しいと感じる。私は中国の大学院にも所属しているが、そちらの方ではどちらかというと”就職”に近いような印象を受け、指導教員から給料も支払われる。また、周りの方からもすごいといった評価をうけている。一方、日本では二十代後半になっても就職していないダメな人というレッテルを(特に田舎では)張られてしまう。とても理不尽な状況であると思う。</p>	